

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	常に、地域との交流を頭において入居者のお世話に取り組んでいきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	毎日散歩に連れ出し、近所の人達と挨拶するようにする。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	○	ご家族だけでなく、近所の方が面会に来た時にも説明する。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生の受け入れを行っている。 ・現在、地域住民対象には勉強会は実施していない。 	○	地域の高齢者の暮らしに活かすことができるように、勉強会等を実施していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価を全職員で行い、サービスの向上に努めている。 ・外部評価より指摘をいただき、改善に取り組んでいる。 	○	他の地域の人々に認知症についての説明に回る必要がある。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所からの報告と参加者からの質問・意見・要望を受け、サービスの向上に活かしている。 ・2ヶ月に1回開催している。 ・前回の会議の議事録等を作成し、参加者に配布している。 	○	運営推進会議の議事録を職員全員に回覧し、会議内容の共有を図るようにしたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>現在、市との行き来する機会は少ないが郵便物等は持参し、顔見知りになるように努めている。</p>	○	介護相談員についての勉強会を市の方で開催していただきよい勉強になった。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>すべての入居者様にご家族がいて金銭のお世話はして下さっている。</p>	○	今後、家族のいない入居者の為に権利擁護や青年後見人制度について学ぶ必要がある。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在ホームでの虐待はないが、実際に行った場合の対応方法について明記できていない。 ・申し送り及びミーティング等により話し合いをしている。 	○	高齢者虐待防止関連法についての勉強会がまだできていないが機会があればしていく予定です。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>入居時の契約については、本人とご家族と十分な話し合いを行い、ご理解いただいている。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>運営推進会議に外部者より意見をいただき、運営の参考にしてている。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>毎月、担当スタッフよりご家族の方に行事や出来事を写真に載せて報告している。 ・金銭管理は、毎月その月の収支をコピーして渡している。 ・職員の異動等は、事後報告している。</p>	○	金銭管理については毎月家族の方の確認印、サインをもらうようにした。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>・運営推進会議より、ご家族の方からの意見、不満、苦情等を頂き運営の参考にしてています。 ・苦情は、苦情用紙を設置し、要望等は、申し送り時に話し合うようにしている。</p>	○	家族会を作りその中で家族が遠慮なく伝える機会を持ってもらいたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>・ミーティングを月1回行い、職員の意見を聞き、意見を反映させ、質の向上に繋がるように努めている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>・入居者の状態の変化に応じては、柔軟な体制をとり、対応している。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>・各ユニットの職員を固定化し、馴染みの職員が対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・定期的に、病院内で研修会が開催され参加している。</p> <p>・事業所外の研修会については、申し送り時に職員に案内し参加を促している。</p>	○ 全員に回覧し目を通すようにし、見た人は日付とサインを書き込む用紙を貼るようにした。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	H19. 10月相互評価に参加して、どこのグループホームも同じような悩みを抱えていると実感した。	○ 定期的に他の地域の同業者と交流できるよう、積極的に働きかけサービスの質の向上を目指す。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。	○ 今後、ある程度余裕がある業務となるように人員の確保、勤務スケジュールの改革等を検討している。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・職員が、向上心を持って働けるよう職能評価を行っている。</p> <p>・職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	事前面談で生活状態を把握するようにし、ご本人の求めていることや不安を理解できるよう努めている。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・ご家族が求めていることを理解し、どのような対応ができるか事前に話し合いをしている。</p> <p>・困っていることがあれば本人から聴き、話したくても話せない人などは職員が注意し、こちらから話せるよう持っていき、不安を受けとめています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は、本人やご家族の実情や要望をもとに、その時点で何が必要か十分見極め対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族が事業所を見学され、利用者の視点に立って柔軟な支援ができるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・共感及び傾聴する姿勢を持ち、共に支えあえる関係づくりに留意している。 ・その人のできる事(料理の下準備・掃除等)をお手伝いしてもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、入居者様を家族と同じような思いで支援してる。	○	家族の一員として接し、話し合えるような場を支援する。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事、誕生会等がある時は、ご家族の方に連絡し参加していただき、より良い関係づくりを築くことができるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が来られた時は、お茶等を出し、良い雰囲気づくりのお手伝いをしている。	○	居心地の良い場を提供し気軽に入出入りできるような雰囲気づくりをする。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・レクリエーション、食事等により、入居者同士、顔を合わせ孤立しないようにしている。 ・入居者同士が共に、楽しく会話ができるように良い雰囲気づくりのお手伝いをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居者様の心身状態や個別の事情等で退居された方は、殆ど関係が切れている状況である。	○	退居された方の近況を知り、可能な限り関係性を継続できるよう努めたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの性格を把握し、入居者様の思いやりや意向について関心を払い、できる限り本人の希望に添えるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら入居者様の事を深く知るように職員全員が心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の暮らし方や小さな動作から何か感じ取り、現状を総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者様の視点にたち必要な支援を取り込み、個別の具体的なプランを作成するようにしています。また、定期的にかンファレンスを行い意見交換しプランの反映に役立てる。	○	事業所の関係者の意見を含めて課題となることを、スタッフ全員で話し合い介護計画の作成に活かせるようにする。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者様の思いや意向が反映できるように状況に応じて、モニタリング・カンファレンスを行いプランの見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、介護観察記録(食事量・健康面・排泄・入浴等)を活用し、プランの見直し及び評価を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、外出、外泊、要望の受け入れ等、十分に満足していただけるよう柔軟に支援してる。デイサービスの利用開始にあたり、グループホームの多機能性を活かした。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に地域の方がボランティアに来て下さり交流を深めている。	○	学生さんのボランティアの要請を行っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・本人の希望や体調に応じて、移動美容室(月1回)を利用されている。	○	少しずつですが地域の方々に気軽に立ち寄れるようなホームになってきています。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ショート及びデイサービスの利用者に対し、地域包括支援センターと共に個別支援ができるようにしている。	○	デイの利用者を増やし、グループホームを活性化していく予定にしている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・併設する病院があるので、ご家族にも安心していただいている。・定期的に院長先生の回診があり健康管理をしてもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症の専門医はいませんが、2週間に一度小松島病院の院長の回診があり、適切な指示や助言をして下さっている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護職員(施設長)と密に連絡を取り対応している。</p>	<p>○</p> <p>日々の生活で健康管理をチェックし申し送る。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院によるダメージを極力防ぐ為、医師と話す機会を持ち、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにアプローチしている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>急変の可能性のある方には、医師より今後の説明を受け、ご家族に最後をグループホームで迎えるかどうか確認を取っている。</p>	<p>○</p> <p>終末期の方針は、重ねて話し合い無理なく自然に利用者が幸せと感じていただけるよう取り組んでいきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末期の支援について話し合う機会を設けている。できない事の見極めも具体的に話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>終末期の利用者が日々の暮らしの中で1回でも多く、笑顔で喜んで下さる事をして差しあげたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>できるだけ転居する必要のないよう支援し、どうしても退居する場合は移行先へ介護要約、アセスメント、ケアプラン等を手渡し情報を伝達している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご家族様から聞いたプライベートな事も漏洩しないように徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に繰り返し説明を行い、本人の意思を尊重し自己決定をしていただいている。	○ 利用者の希望があるか、ゆっくり話し合える機会を設けたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等を全員に声かけしているが、その時の体調を考慮し支援している。お手伝いも、希望に添って積極的にお願いしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	移動美容室を利用されたり、ご家族と一緒に美容院に行かれています。	○ 朝の整容介助時に髪を梳かせていただくようにする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員がテーブルに同席し、会話も楽しみながら家庭的な食事を楽しんでいる。季節を感じていただけるように、食材に旬の物を取り入れている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	夕食時に晩酌を楽しまれている利用者支援を行っている。	○ 利用者に何が好きか聞かせていただけるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できる限りおむつ、紙パンツの使用は控えている。排尿・排便状態も職員間で常に話し合いトイレ誘導し、トイレで排泄できるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者に合わせ職員本意にならないように入居者の自己決定を尊重しています。無理強いをせず声かけし、出来る事はご自分でしていただき、寛いだ気分で入浴できるように支援している。	○	1日おきの入浴となっているが、便失禁があったりとか、元気で自分で入れるような方は見守りしながらその人の能力を活かすようにする。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせて、ご本人の気持ちを尊重しながら支援している。一人ひとりの体調や表情を把握し、生活リズムを整えてゆっくり休息できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意分野・生活歴を職員が利用し、その人にあったメニューを考えて支援している。無理強いをせず状況に応じて気持ちよくお手伝いが出来るように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方は、買い物などに行った時にご自分で精算してもらっています。できない方には、ご家族からお金を預かり職員が管理し、ご本人にも預かっている事を伝えている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に添えるようにし、季節に応じて外出を楽しんでいる。買い物やドライブ等、戸外の空気に触れさせリフレッシュできるよう取り組んでいる。また、できるだけ毎日散歩に連れ出すようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	桜、コスモスまた菖蒲の花と季節に応じた花見をしたり、年に1回外出に行っています。また、ご家族にも参加を呼びかけている。できるだけ戸外に出かけたり、地域の行事にも参加していけるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を使用できるようにしている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは定めておらず、ご家族等の都合のいい時間帯にいつでも訪問していただけるようにしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、身体拘束について正しく理解し拘束のないケアに取り組んでいる。事故など起こる可能性のある方には、ご家族の許可をもらい最小限の拘束で済ませている。また、定期的に見直しできるだけ拘束しないよう取り組んでいる。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面に配慮し、日中は鍵をかけているが入居者一人ひとりの外出の癖や傾向をつかみ、いつでも外出できるような状態にしている。	○ 鍵をかけない方向でいきたいのですが、環境的に安全性を考え鍵をせざるを得ない。外に出たそうにしている時は散歩に行き気を紛らすようにする。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、入居者が何処にいるかを把握し見守っている。夜間は、時間を決めて各居室を見回りし、コールにより入居者の呼びかけにもすぐに対応できるようにしている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	キッチンハイター、サンポール等、注意が必要な物については使用時以外は鍵をかけている。薬については、職員が保管及び管理している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に職員は、自己防止のため連携しながら仕事を行っています。万が一事故が起きた場合は、ヒヤリハット、事故報告書を作成し事故原因の今後の予防対策について職員間で話し合いをしている。特に誤薬があってはいけないので日付、本人確認をしながら職員が飲ませるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜勤時の緊急時対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図れるようにしている。	○	全職員が応急手当の勉強会を実施し対応していきたいです。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し、年2回避難訓練を全職員で実施している。入居者自身は危険を伴う為行っていない。	○	入居者自身も危険を伴わない範囲で訓練をやる必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況変化に応じて、ご家族には説明し話し合いを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や些細な表情の変化も見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。管理者に報告するとともに職員間で共有し対応にあたっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られる時は、詳細な記録を取るようし、協力医療機関との連携を図れるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や散歩、家事活動等、身体を動かすことで自然に排泄できるように取り組んでいる。また、水分摂取量の少ない方には、頻回にお茶等を勧める。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、一人ひとりの力に応じた歯磨きの手伝いをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の摂取状況を毎日チェック表に記録している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員・入居者にうがい、手洗いの励行。また、感染予防のため、予防接種及び強酸性水を使用し感染対策を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・食材は、前日に業者より持ち込まれる。 ・調理器具は熱消毒を行っている。 ・冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検を頻繁に行っている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周りに余分な土地がないため、玄関前にプランターを置き季節の花を植えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりの感覚や価値観を大事にしながら、五感や季節感を意識的に取り入れるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関口にソファーとテーブルを置き、仲の良い入居者同士で寛げるスペースを作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具など家から持ってこられ入居者が安全で安心して使いやすいようにしている。清掃は毎日、リネン交換は週に一度行い気持ち良く過ごせるよう心配りしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員が入居者様の部屋に入った時など窓を開け換気を十分にし、冷暖房の調整は、入居者様に声をかけながら行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の残存能力を大切に、自立した生活を送ってもらえるようにしている。各居室の出入り口に手すりを付けている。入居者本人ができる事は自分で(調子のいい時)していただけるようにしている。	○	安全な環境づくりについて職員全員が再確認する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者一人ひとりの判断力を見極め、職員は常に見守り混乱や失敗もゆっくり説明を行い理解していただいている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前・ベランダにプランターを置き、四季折々の花を入居者と共に楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎週2日グループホーム内でデイサービスを開き2名の方が通って来ておられます。とても喜ばれて入居者の方達と一緒にレクリエーションされています。現在、入居者の一人がターミナルを迎え最後までグループホームで暮らせて良かったと、本人・家族に思っただけのよう頑張っている。